発行日：平成31年3月22日

事務局：舞鶴市企画政策課　電話：66・1042　木下、西、渡邉

平成30年度 政策づくり塾
地域公共活動報告会・修了式（第10回活動）

一年間の塾活動の集大成として、塾生が企画・実践した公共活動についての報告と今後に繋げていくための提案を発表する「地域公共活動報告会」を開催。塾生の職場の上司や同僚など約30名が聴講に来られ、熱のこもった発表に聞き入りました。その後、修了式が行われ、市長から塾生へ修了証が渡されました。

地域活動報告会

「頑張る新米ママたちへ！
～ヨーガで繋がる こころ・からだ・なかまの輪～」
（永江・増永・畠中・岩崎）
◆テーマ：初産婦にヨーガ教室やランチ交流会を行うことで、母親同士のコミュニティの形成を図り、かつ心身ともにリフレッシュできる機会を提供する。
◆今後にむけて：参加してもらいたい方への広報の仕方・呼びかけの方法の工夫をしていく必要がある。

②「ＭＡＩＺＵＲＵ　ＷＯＲＫ　ＮＯＴＥ」
（原・傍島・嵯峨根・谷口）
◆テーマ：舞鶴で働いている方々の職業やライフスタイルを直接取材し、冊子にまとめることで「舞鶴で働き、生活する魅力」を地元の若い世代に伝える。
◆今後にむけて：舞鶴市の魅力を若い世代に伝えることの重要性を再確認した。継続的に情報を発信していくことが大切。若い人たちに注目してもらえるような方法で、情報発信していくことが大切。

③「フォトロゲイニングで巡る田辺城下」
（松﨑・長井・河田・川西・渡邉）
◆テーマ：大河ドラマに向けて気運を盛り上げるために、田辺城下を中心とした地域に埋もれている文化資源を発掘し、その文化資源をゲーム感覚で巡ってもらえるイベントを開催することで地域の魅力発信と観光誘客につなげる。
◆今後にむけて：市内外からの誘客につながり、まちなかに回遊性が生まれる仕組みをつくり、まちの魅力を発信し、市民も地域に愛着を持てる取組を継続することが大切。第2回イベントで今回の経験を生かしたい。

【市長の講評】
◆「頑張る新米ママたちへ！～ヨーガで繋がる こころ・からだ・なかまの輪～」
今後どんな方法で(体を動かすのが良いのかなど)取組を継続していくことがより効果的なのかを考えていってほしい。市としても、人と人のつながりをサポートできるような形でAIやIoTの活用を進めていきたいと思っている。
◆「ＭＡＩＺＵＲＵ　ＷＯＲＫ　ＮＯＴＥ」
「田舎には何もない」という考え方ではなく「ないものは自分たちで工夫し作りだす余地がある」という考え方を持つことが大切。自分のまちを知り他のまちと比べる中で、都会にはないまちの良さを発信することが重要だ。
◆「フォトロゲイニングで巡る田辺城下」
地元の人が自らまちの魅力を発掘し、その良さを発信するような取組であったと思う。

【窪田塾長の講評】
ヨガのグループについては、今後、ママを対象とした活動を継続するにあたり、支援を希望しているけれども自分から手が挙げられない人にどのように呼びかけていけばよいかも考えてみてほしい。ワークノートについては、交渉から冊子のデザイン構成まで、自分たちで行い、3000部もの冊子を作成する重みを体験できたのではと感じる。フォトロゲイニングのグループは、市民自ら何かまちを盛り上げる方法が無いかと考え、今までにない方法が出てきたのが良かった。